

6 既存施設の利活用について

■花博の主要8施設

これまで、花博の主要8施設（レガシー施設）は、鶴見緑地内における花博理念の継承の形の一つとして存置してきた。

今後は、新たな鶴見緑地の魅力向上を図る上で、施設の存置を目的化せず、花博理念を踏まえた本計画の将来像及び基本方針に沿った取組に有益で、積極的な利活用が可能な施設については引き続き存置し、利活用が困難な施設、若しくは本計画の将来像及び基本方針に沿った利活用を図るのに効果が低い施設については、廃止や撤去もやむを得ないこととする。

○咲くやこの花館

花と緑の拠点として花博の理念を継承する日本最大級の温室である咲くやこの花館は、多くの植物の寄贈を受け、希少植物を多く有する植物館としての価値が高く、鶴見緑地の魅力向上に資する主要な施設であることから存置する。

なお、利活用の促進にあたっては学習・体験プログラムや情報発信・交流機能などの強化をより一層図る。



咲くやこの花館

○国際庭園

各国の庭園文化を展示している国際庭園は、シンボル性の高い庭園や、改修により良好な状態の庭園は原則存置し、本市において全庭園を対象に、花博当時の姿を紹介する二次元コード付の銘板を設置する。

なお、存置庭園については花壇整備などにより更なる魅力向上を図り、その他の庭園については形態や規模の見直し、他用途への転換も視野に入れ、時代のニーズに応じた利活用を図る。



国際庭園

○国際陳列館、水の館、迎賓館、花の谷・花栈敷、いのちの塔

これらの施設は、施設そのものの存置が必ずしも花博理念を継承するためのものとなっていないことから、本計画の基本方針を実践するための有効活用の可能性を検討した上で、他用途への転換や展開場所の変更も視野に入れ、時代のニーズに応じた利活用を図る。

なお、利活用が困難な場合については、撤去もやむを得ないこととする。



国際陳列館



いのちの塔

○政府苑

現在の利用状況や施設形状などを考慮し、レガシー施設としての位置づけを見直し、自由な利活用を図る。



政府苑

■鶴見緑地の景観を構成する特徴的な施設

風車と大花壇など次に示す5施設は、鶴見緑地を象徴する景観構成要素であり、本計画の基本方針を実践するためにも、引き続き積極的な利活用を図る。

○風車と大花壇

鶴見緑地の風車は、花博開催時には多くの来園者の印象に残る象徴的な施設であり、花博後に整備された大花壇とともに、鶴見緑地の魅力を発信する施設として多くの方に親しまれてきた。

利用者へのサービス向上や、魅力の一層の磨き上げのため、風車と花壇が一体となった、シンボリックな景観と調和したカフェ・レストランの整備など、象徴的景観を活かした活用を図る。



風車と大花壇

○大池とその周辺

鶴見緑地の中心に位置する大池は、鶴見緑地整備以前からあった湿地帯の一部を残して造成され、現在も都市の中で多様な生き物が観察できる貴重な自然環境を創出している。

水景施設としての魅力を最大限発揮するため、自然の浄化力を活用した水質改善に取り組み、水辺や水上レストランの整備、自然環境の学習の場としての活用、また、周遊ボートや水上遊具の整備、水辺での体験プログラムの実施などにより、親水性を活かした利活用を図る。



大池

○大芝生

花博当時のパビリオンの跡地に整備された大芝生は、市内最大面積を誇る芝生広場で、日常的に多くの方に利用されている。

広がりのある空間の中で、様々なレクリエーション活動ができるよう、大型遊具の整備や健康プログラムの提供など、あらゆる人々の多様な活動のフィールドとして魅力向上を図る。また、大芝生に面してレストラン・カフェや、多様な活動をサポートするレンタルショップなどを整備し、利用者の利便性向上を図る。

さらには、コンサートやフリーマーケットなどのイベント開催による賑わい事業の場として活用し、公園利用の促進を図る。



大芝生

○鶴見新山

廃棄物等の埋め立て処分によって造成された鶴見新山は、鶴見緑地の特徴である起伏に富んだ地形を形成している。

平坦な市街地が広がる大阪市内では最も標高が高く、鶴見緑地全体を見渡せる展望機能を有しており、その特性を活かし、周辺の樹林の適正な管理により展望機能を確保するとともに、眺望対象としての魅力向上を図る。



鶴見新山

○中央通・中央噴水

約480mにわたるメタセコイア並木と水路で構成される中央通と円形の中央噴水は、駅から園内に来園者を誘う鶴見緑地のエントランスとして、多くの方に利用されている。

鶴見緑地全体の活性化のためには、公園利用者が行き交うエントランスでの賑わいに、回遊性向上の拠点としての機能を発揮するための取組を組み合わせることが重要である。

そのため、常設の新規施設整備のみならずキッチンカーの出店などの仮設施設により魅力向上を図るとともに、案内サインの充実や園内移動システムの発着場の設置など、利用者の快適な園内移動を促すサービス機能の拠点として回遊性の向上を図る。



中央通



中央噴水

■その他の施設

スポーツ施設やバーベキュー場などの施設については、必要な整備改修に加え、各種教室の開催やイベントの実施、情報発信の強化などソフト面での取組により、利用促進を図る。

○スポーツ施設

球技場、運動場、庭球場、スポーツセンター、プールなど市民の健康づくりや体力増強に寄与するスポーツ施設は、各種プログラムの提供を充実させることにより、施設そのものの新規利用者の獲得を図る。

また、多様な利用者ニーズに対応するプログラムの充実によりスポーツ施設の一層の機能充実を図るとともに、広域からの利用者の増加に繋がる各種大会の誘致を推進する。

市内唯一のパークゴルフ場は、健康づくりの場としての活用を推進するために、施設の魅力発信を継続して進め、新規利用者の獲得を図る。また、認定コース化によるブランド力の向上や、大会誘致を推進する。

西日本最大級の面積を誇る市内唯一の乗馬苑は、初心者から上級者、経験者まで対応する乗馬レッスンを展開するなど、誰もが馬と触れ合える施設として整備されたものであり、引き続き、その機能を継続する。また、施設規模を活かして、夏休みの小中学生を対象にした宿泊イベント、馬術大会や競技会の会場としての誘致の強化など、より一層の利用の活性化を図る。



球技場

※写真出典：ミズノグループHP



鶴見緑地プール



パークゴルフ場



乗馬苑

○バーベキュー場

緑地の中で気軽にアウトドア体験ができるバーベキュー場は、利用者数増加の傾向を踏まえて、より質の高いサービスを提供するための機能拡充のほか、多様化するニーズに応えるために、条例施設(鶴見緑地野外卓)からの削除も視野に入れた展開場所の変更や他用途への転換を図る。



バーベキュー場

7 目標来園者数

鶴見緑地の現状の来園者数は、平成30年に実施した利用者数調査の結果を基に、年間約435万人と推計される。

段階的な施設整備等により、7年目を目処に年間利用者数が115万人増加すると想定し、目標来園者数を年間550万人と設定する。また、7年目以降も、年間利用者数を維持し、さらには増加させるよう、持続的な魅力向上を図る。

8 参考：基本方針に基づく必要な機能と取組のイメージ

基本方針	必要な機能	取組のイメージ	
		ハード	ソフト
1 都市における貴重な自然環境の提供	①自然との共生空間創出・保全機能	<ul style="list-style-type: none"> 風車と大花壇、大池、大芝生など、鶴見緑地を象徴する景観として魅力の磨き上げ 鶴見新山の眺望（主対象）と、鶴見新山からの眺望（視点場）の確保 自然の浄化力なども活用した大池の水質改善 自然体験観察園を生き物の生息空間として充実 高質な花や緑の空間を創出（必要に応じて有料エリアを設定） 	<ul style="list-style-type: none"> 鶴見新山の認知度向上のための情報発信 市民や企業による樹木の管理や花の植栽プログラムの実施 鶴見緑地の特性を活かした学習・体験プログラムの提供 なにわECOスクエアと自然体験観察園を中心に生物多様性の保全に向けた連携・協働を推進 花博当時を体験できる展示やプログラムの提供 公園内のガイドツアーの実施 花博の記憶を受け継ぐ周年事業などのイベントの開催
2 あらゆる世代の健康、ライフスタイルへの貢献	②運動・健康づくり機能 ③多様な活動機能 ④子どもの育成機能 ⑤賑わい創出機能	<ul style="list-style-type: none"> ランニングやウォーキングのコースや距離表示板の整備 シャワールームやロッカー、合宿所などのサポート施設の新規整備 デイキャンプやグランピングなど、アウトドア機能の拡充 子どもの年代に応じた屋内遊戯施設や大型遊具などの施設の新規整備 噴水や浅瀬など水遊びができる施設の新規整備 咲くやこの花館の飲食・物販機能の充実 山のエリアにおける、レストラン、カフェ、休憩施設などの施設の新規整備 中央通及び中央噴水周辺での花壇や新規施設の整備 ライトアップなどによる夜間の公園の魅力増進 	<ul style="list-style-type: none"> 庭球場、球技場、運動場、プールなど既存施設の連携による利活用の促進 大芝生などの園地を活用した健康プログラムの提供 芸術の表現の場を提供 子育てを支援するイベントやプログラムの提供 地域コミュニティによる利用の促進 イベントなどの賑わい事業の充実 キッチンカーなどによる賑わいの創出 フラワーガーデンショーなどの主要イベントの継続的な実施 花博の記憶を受け継ぐ周年事業などのイベントの開催【再掲】 夜間の魅力向上イベントの実施
3 あらゆる人々への質の高い教育や生涯学習の提供	⑥体験・学習機能	<ul style="list-style-type: none"> 農、食、クラフトの体験工房などの施設の新規整備 自然体験観察園を生き物の生息空間として充実【再掲】 再生可能エネルギー・クリーンエネルギーの活用や効率的なエネルギー活用とそのショーケース化 	<ul style="list-style-type: none"> 咲くやこの花館での年齢層に応じた学習・体験プログラムの強化 花・緑に関する情報発信・交流・相談・レファレンス（照会）機能の強化 市民や企業による樹木の管理や花の植栽プログラムの実施【再掲】 鶴見緑地の特性を活かした学習・体験プログラムの提供【再掲】 自然体験観察園やなにわECOスクエアにおいて、自然との共生に向けた環境学習の取組の強化 花博当時を体験できる展示やプログラムの提供【再掲】 公園内のガイドツアーの実施【再掲】

基本方針	必要な機能	取組のイメージ	
		ハード	ソフト
4 国内外の多様な人々の交流及びイノベーションの創出	⑦交流拠点機能 ⑧イノベーション創出機能	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設（合宿所など）の整備 ・会議やイベント開催等の交流拠点機能の充実 ・交流及びイノベーションを促進させるためのWi-Fi環境等の整備 ・ユニークベニューの積極的な展開 ・再生可能エネルギー・クリーンエネルギーの活用や効率的なエネルギー活用とそのショーケース化【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・迎賓館などの施設利用を活性化し、イベント等利用を促進 ・国際庭園における各国文化を取り入れた利活用の実施 ・市民レベルの交流を促進するイベントの開催 ・芸術の表現の場を提供【再掲】 ・UNEP国際環境技術センターや地球環境センター等、様々なステークホルダーと連携し、環境分野の国際交流拠点を形成 ・駅前エリアの民間施設との連携イベントやプロモーションなどの実施 ・体験学習施設における多世代交流や国際交流の推進 ・最新テクノロジーの実証実験の場の提供
5 あらゆる人々への安全、快適性の提供	⑨サービス機能 ⑩防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、休憩所、売店なども含めた既存施設のサービス水準の向上 ・施設や園路のバリアフリー化、多言語サインの設置を促進 ・園内の回遊性の向上、新たな園内移動システムの導入と安全な歩行者動線の確保 ・地下鉄の出入口から公園エントランス（中央通・中央噴水）までの誘導のための案内サインや花壇などの整備 ・分煙化のための喫煙スペースの整備 ・夜間照明の充実 ・避難・救援の場となる広場や施設などの確保、避難者を支援するための防災Wi-Fi整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のインフォメーション機能の充実 ・リピーターを確保するため、公園利用者の利便性を向上させる会員制度などの仕組みづくり ・防災学習教室の運営 ・防災、避難場所運営マニュアルなどの作成、防災訓練の場の提供
6 持続可能な発展のためのマネジメントの導入	⑪最先端技術の導入 ⑫トータルマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に応じた最先端技術の活用 ・再生可能エネルギー・クリーンエネルギーの活用や効率的なエネルギー活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者による柔軟なマネジメント ・再投資により持続的に好循環を生み出すための仕組みづくり ・公園の認知度を向上し、公園に人を呼び込むプロモーションの実施 ・市民や企業による寄付や社会貢献活動を受け入れていくための仕組みづくり ・市民、企業、周辺施設等との連携のためのプラットフォームづくり



学習の場となる“咲くやこの花館”イメージ例

植物の鑑賞機能にとどまらず、飲食しながら植物を学習できるビブリオ・カフェや、自然体験プログラム等を付加するイメージ例



各国文化を取り入れた“国際庭園”イメージ例

国際庭園の特徴を活かして、各国の料理を提供するレストランやカフェや花壇等の修景施設を設置し、庭園の魅力と利用者の利便性を向上させるイメージ例



多様なライフスタイルに応える“大池”イメージ例

水質を改善することで、親水性を高め、水辺を活かした水上遊具などの池の利活用を促進させるとともに、水辺を楽しみながら休憩できる水上レストランを設置するイメージ例



多様な活動を受けとめる“大芝生”の活用イメージ（例）

大阪市営公園で1番の広さを活かし、様々な活動ができるよう、健康プログラムなどの提供や、活動をサポートするレンタルショップなどを設置するイメージ例



鶴見緑地全体を見渡せる“鶴見新山”イメージ例

大阪市内で最も高い標高を活かし、鶴見緑地全体を眺望できるフォトスポットとしての価値を高めるとともに、高さを体感できるアクティビティ施設を設置するイメージ例

あとがき

本計画は、2020年度からの20年間を見据え、持続的な鶴見緑地の魅力向上と発展をめざして策定したものです。本計画を基本に、今後、2020年以降の鶴見緑地の新たな管理運営事業者の公募要領を整理していきます。事業者公募に参加していただく皆様、並びに鶴見緑地における様々な取組に参画していただく皆様におかれましては、単なる公園活性化の取組ということにとどまらず、「SDGs」の達成に貢献し、「自然と人間との共生」の実現につながる取組を行う重要なステークホルダーとして、私たち行政とともに活動していただければ幸いです。